

2006 年度 東京蜘蛛談話会 4 月例会総会

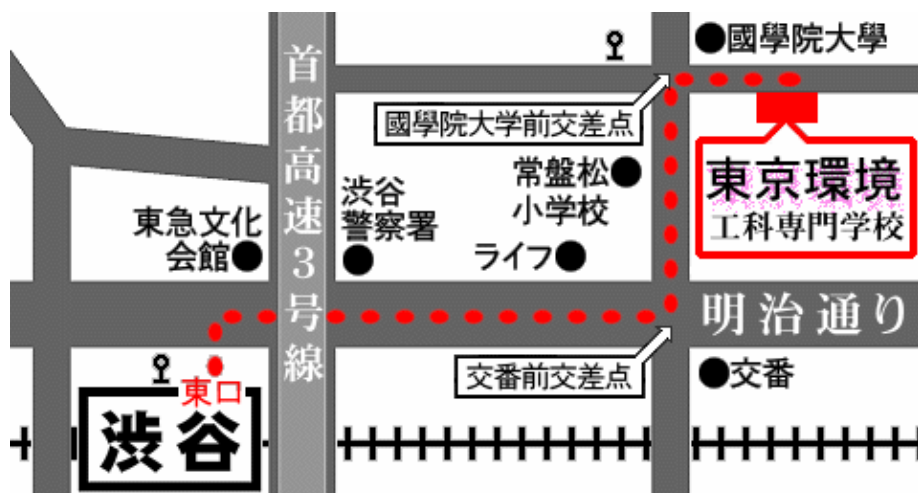
1. 日時 2006 年 4 月 16 日(日) 10 時より(開場 9 時 30 分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒150-0011 東京都渋谷区東 2-5-3
「JR 渋谷駅」東口(東急文化会館側)より、「学 03 日赤医療センター行」バスにて約 5 分、「國學院大學前」下車、徒歩 1 分、170 円
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 プロジェクター、OHP 等用意いたします。
5. 同封のはがきで、氏名、連絡先、出欠、講演の有無、講演ありの場合には演題と使用希望機材(スライド、OHP、コンピュータ)をお知らせください。また、近況をお知らせいただくと幸いです。また、はがき以外の手段で下記にご連絡いただいてもけっこうです。

〒186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203 有限会社エコシス
初芝伸吾

mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp

Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

- 渋谷駅東口から徒歩 15 分です。坂道がありますので、バスを利用した方がよろしいかと思います。
- 東京環境工科専門学校及びその周辺には駐車場ありません。



2005 年度採集観察会

1. 期 日： 第 4 回 2 月 19 日（日）
2. 場 所： 弘法山（神奈川県秦野市）
3. 集 合： 小田急線 鶴巻温泉駅北口改札 午前 10 時集合
4. 世話人： 池田博明

新宿発 8：41 の急行は 9：44 に鶴巻温泉に着きます。

町田始発 9：25 の急行は 9：55 に鶴巻温泉に着きます。

2006 年度採集観察会

1. 期 日： 第 1 回 5 月 14 日（日） 第 2 回 7 月 9 日（日）
第 3 回 10 月 15 日（日） 第 4 回 2 月 18 日（日）
2. 場 所： 片倉城跡公園（東京都八王子市）
3. 集 合： J R 横浜線片倉駅改札口 10 時 30 分
または公園入口（管理事務所付近）に 10 時 40 分
4. 世話人： 木村知之

※京王線を利用される方は、京王片倉駅から公園まで国道 16 号沿いに歩いて 5 分程度です。

東京蜘蛛談話会 2006 年島根合宿予告

2006 年度の東京蜘蛛談話会の合宿は、島根県温泉津（ゆのつ）温泉周辺で実施します。今年度は関東周辺で開催予定でしたが、日本蜘蛛学会の大会が今年は東京都、来年は熊本県で開催されるということです。そのため今年は遠隔地で来年は関東周辺で合宿をする方がよいだろうということになりました。ご了承下さい。

山陰地方での合宿は初めてですので、多くの方々の参加をお待ちしています。

日程：2006 年 7 月 21 日（金）～7 月 23 日（日）

宿舎：島根県邇摩郡(にまぐん)温泉津町 温泉津温泉

なお、申し込み方法や詳細な案内は 5 月に発行予定の談話会通信をご覧下さい。

東京蜘蛛談話会例会

2005 年 11 月 27 日 東京環境工科専門学校にて



参加者一同

開 式

新海栄一：萱島先生が逝去され、談話会に 20 万円の寄付がありました。前夜祭では新海栄一が送る言葉を、告別式では日本蜘蛛学会会長弔辞が松本誠治代読でありました。

自己紹介

八幡明彦：談話会でのクモグッズの会のとき、萱島先生に初めて会いました。気さくな方で談話会に好印象を持ちました。翻訳した立体クモ図鑑『タランチュラ大解剖』が講談社から出ます。ナショナル・ジオグラフィック製作の『サムライ・スパイダーズ』が放映されました。

池田博明：萱島先生と 1980 年に会い、入会しました。まだ自分のやるべき仕事が不十分なままだと感じています。中島はるさんのアカペラ合唱曲集『歌う昆虫記』（作詞はさいうしんいちろう氏、イラストは小澤実樹氏、サーベル社）を紹介しました。

新海栄一：萱島先生が命名されたワクトツキグモ（谷川明男写真）が葬儀のお礼状に使われます。2006 年の春、クモ写真図鑑が発行予定です。クモ学会の自然保護委員会が稀少種を選定、イソコモリグモの保護の要望書が日本蜘蛛学会評議員会で検討中。日本蜘蛛学会の 38 回大会（70 周年記念大会）を国分寺で実施します。

井出和美：開店休業中です。

谷川明男：次号の KISHIDAIA で萱島先生の追悼特集を予定しています。原稿の締め切

りは 12 月末。来年の合宿は島根の温泉津，さ来年は千葉で行う予定です。11 月の沖縄のヤンバルで側溝に落ち，足を痛めました。一週間，宿舍に閉じこもって座りっぱなしの生活で大変でした。

萩野康則：10 月の行事で採集会に出られず残念でした。科学系の児童書がよくできています。平成 20 年に千葉県博でクモの企画展はどうでしょうか。

安藤昭久：丹沢大山総合調査でサラグモ調査中。11 月 19 日（土）20 日（日）にテント泊で西丹沢を調査。西丹沢はシカの糞だらけでしたが，ヒルはまだ少数でした。

浅間 茂：講談社ブルーバックスで『ボルネオ野生動物』が発行されました。生物部・写真部・テニス部を指導しています。全国農村協会のクモや自然観察会を指導しています。

工藤泰恵：群馬昆虫の森で矢島稔館長と話しました。

初芝伸吾・琢磨：使いやすい吸虫管，掘り取り棒を紹介します。ナミハグモの分布を調査中です。

梅林 力：杉並の小学生にクモの講話をしました。日本女子大学の社会教育の講座を持っています。我が家で 16 年間生存したワスレナグモ雌が死亡しました。同定し終えたクモを研究材料に下さい（特に篩板類とヒメグモ属）。

加藤輝代子：増穂町クモ基本 30 を製作中。東邦大学との関連で白石のクモ調査を開始。

仲条竜太：東邦大学学生。調査結果を報告していきたいと思います。

木村知之：相模原市で市民のクモ調査を展開。ジョロウグモを取り上げました。マルゴミグモをよく見かけます。

岩下和弘：増穂町でクモの写真を撮影しています。

加藤むつみ：トゲグモの発表をします。

佐藤英文：横浜から来ました。

安田明雄：会計担当です。

萩本房枝・果南：横浜から来ました。

高津素夢：町田から来ました。

講 演

（1）浅間 茂：校舎内のクモの分布と環境

勤務先の千葉高校では，ガラス窓枠にネコハグモが多い（113 個体）。自動販売機のライト付近にもよく見られる。

シモングモがゴミ箱の下に生息（103 の箱下に 526 個体）。シロホシヒメグモも生息。

チリグモは窓枠や壁面に多数。シロホシヒメグモはゴミ箱下（31 個体）や窓枠（4 個体）に生息。青森でシロホシヒメグモが発見されたという記事



がホームページに出ていた。

イエユウレイグモは黒板下や配水管下に生息。ミスジハエトリ、ユカタヤマシログモ、アシダカグモ、オオヒメグモ、アダンソンハエトリ。校舎内の有機物から発生する昆虫、光に集まる昆虫を捕食。

（２）桑田隆生：ワスレナグモの住居

日本大学理工学部船橋校舎内の草地に 150 以上の巣穴がある場所がある。ほかには数個体が生息する場所が一箇所。ワスレナグモの巣穴の参考資料に緒方清人氏のものがある。開口部の傾きは掘り取った土を片側に盛土で捨てるため、環境に関わらずに起こる。巣の底に食べカスがつめられているが、緒方の記述のような穴は必ずしも明確でない。底は二股になっている。片方が古い住居でもう一方が新しい住居であろう。



（３）八幡明彦：サムライ・スパイダーズ

（昼休みに上映）

八幡さんを主人公に、加治木町のクモ合戦をクライマックスにして、たいへん面白く出来ています。さすがナショナル・ジオグラフィック！また、字幕監修も八幡氏がしたので適切なものに仕上がっています。



（４）萩野康則：松岡達英さんの絵本に登場するクモたち

松岡さんは 120 冊ほど絵本を描いている。作風が多岐にわたっている。昆虫・恐竜・熱帯・SF が好きなようだ。八木沼健夫『クモの話』の表紙も松岡さんだった。タイトルにクモがなくても一こまくらいクモが出てくる。ただし、絵から同定できる種は少ない。



（５）谷川明男：与那国島日記 2005

網を張るコモリグモのオスを発見するのが目的の旅だったが、オスは取れなかった。幼体飼育で後ほど雄を得た。ツツゲハウグモの餌例は蛾だった。サカグチトリノフンダマシ

の卵のう？を発見．クロヤマシログモやハエトリの一種，ヘリジロハシリグモ，アリグモの一種，ミヤグモの一種，アシブトハエトリグモ *Pancorius* 属の一種などを見た．クサグモの網にチリイソウロウグモはいなかった．

(6) 谷川明男：沖縄島・大東島日記 2005

6月10日～12日に沖縄本島にて，ヤマシロオニグモ雌雄，スズミグモ幼体，ケアシハエトリ幼体，ツツゲホウグモ卵のうなどを見た．ノグチゲラはトタテグモやキムラグモを掘って捕食している．ユノハマサラグモ類似種，オオシロカネグモ，リュウキウコアシダカグモなども見た．

6月12日～19日大東島へ．オオヒキガエルやミヤコヒキガエル，アフリカマイマイなどの外来種がととても多い．発光菌，アシダカグモ，オオジョロウグモ，ナガマルコガネグモ，ダイトウマルガタワカバグモ，コマチグモの一種，ダイトウサワダムシなどを見た．島が平地なので全島がサトウキビ畑に開発されており，河川もない．

(7) 岩下和弘：増穂町のクモの写真

オナガグモ・ヤリグモ・ジョロウグモ・コガタコガネグモ・オニグモ・トリノフンダマシ・オオトリノフンダマシ・ハツリグモ・キンヨウグモ・ゴミグモ・ワカバグモ・ナガイツツグモ・クリチャササグモなど．ヤリグモがエゾアシナガグモを狩る動画．

(8) 梅林 力：電子顕微鏡でみたクモの

微細構造 3

糸の利用法と糸疣の関係の知識は古いものが繰り返し使われていが見直しが必要かもしれない．ヒメグモの集合腺は幅広い構造であった（粘球を出す構造）が，イソウロウグモでは退化することが分かった．コガネグモの捕帯の糸は3千本くらいだろう．



卵のうを作る糸にはサイズの異なった糸が含まれており、ときには粘液状の場合もあり、いろいろな吐糸管から出ているのではないだろうか。

(9) 加藤むつみ：飼育下のトゲグモの交接とその考察

針金で作られた枠にタコ糸を張った容器（三島氏製作）で交接させた。1997年に撮影した映像では雌雄は1時間以上接触していた。1993年から現在までに13例の交接を観察した。ただし、産卵された卵のうが孵化した例は1例。雌雄を容器内に同居させる時間がある程度あって後、交接する。交接後18日で最初の産卵をした例で孵化した。ちなみにオスはメスよりも2令少なく、早く出るので、タイミングを合わせるのが難しい。

(10) 新海栄一：新しいクモ図鑑で使用した学名と和名

560種余の写真を備えてクモ図鑑を準備中。

ヤチグモ科・ナゲナワグモ科・ジョロウグモ科を亜科から昇格。和名は八木沼（1960）を尊重し、ヤチグモ・テナガグモ・トウキョウアカムネグモ・ヒメグモ・カラカニグモとした。属名（和名）は *Uloborus*（ウズグモ属）をタイリクウズグモ属、*Octonoba*（トウキョウウズグモ属）をウズグモ属、*Theridion*（ヒメグモ属）をセアカヒメグモ属、*Achaeearanea*（ツリガネヒメグモ属）をヒメグモ属とした。ハモンエビグモ・タカノハエトリ・チビクロハエトリの学名を決定した。使用を保留した学名はキシノウエトタテグモ・ヤマシログモの属名・ズナガグモ属、ツチフクログモ科。



閉会 初芝伸吾

写真撮影

懇親会

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 3800 円、学生 2000 円です。

郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。

会計担当：安田明雄 231-0861 横浜市中区元町 5-219 （TEL：045-641-0763）

E-mail：kobato@gol.com

萱嶋先生、怒る！

新 海 明

「萱嶋先生が怒る！」だなんて到底みんな信じられないでしょう。温厚温和が代名詞の先生ですから納得できないのは当然です。そして、誤解のないように念のために申し添えておきますが、私が何かをしでかして怒られたわけでもございません。

「いつカミナリが落ちるか、とビクビクしていた」とか「一度は必ず怒鳴られたのだから」という、私には信じられないような言葉を耳にしたのは、国立音楽大学付属音楽高等学校（「音高」と親しみを込めて呼ばれていました）に勤務していた時代のことでした。ご存じの方も多いでしょうが、先生は国立音楽大学で教授としての勤務の傍らその付属高校で校長職にでもあたるのでしょうか「付属部長」を兼務されていたのです。また、音高では理科の講義も担当されていました。私はその先生の後任の理科教諭となったわけですから、萱嶋先生と勤務先で一緒することはありませんでした。ですから、怒った萱嶋先生を直接目のあたりにすることはありませんでした。音高に残っていた「伝説」にふれただけでしかありません。

音高はとても閑かな学校でした。また、芸術高校ですからそこへ通う生徒の情操教育の一貫としての旅行を重視しており、その内容も実に素晴らしいものでした。単なる物見遊山ではなく、生徒らに日本各地の文化や伝統を直接触れさせるという明確な意思があったように記憶しています。私も引率教諭としてそれらの旅行に参加したのですが、いつも一番に感動していたのは私自身だったかも知れません。1年次にはオリエンテーションと称して2泊3日で富士山周辺に出掛けました。ここでは、山歩き、自炊、キャンプファイアを体験させ友達作りをさせました。その秋には飛騨高山への旅行がありました。ここでは日本の古都に伝わる食文化や伝統文化に触れさせました。2年次は木曽街道の馬籠妻籠の宿場町へと旅します。その前段階で島崎藤村の「夜明け前」を読破させます。私が島崎文学のほぼすべてを読んでいるのは、これがきっかけでした。最後の仕上げは九州への修学旅行です。7泊8日に及ぶ大旅行でした。行きは羽田から飛行機で、帰りは東京と九州の距離を生徒に実感させるために1泊を要する船旅です。天草のハイヤ踊りや山鹿の灯籠おどりに参加し、高千穂では神楽踊りを夜の神社に詣でて見学しました。九州に残る石仏や古墳群も数々見学しました。そして、志布志の海岸や阿蘇の草原で遊び九州の大自然を体感させることもしました。一週間も生活を共にする宮崎交通のバスガイドさんや運転手さんとの交流も信じられないほど深いものになりました。日向の細島港のフェリー乗り場でのお別れ会で生徒が贈る合唱曲を聞きながら、彼ら彼女らはいつも涙していました。そして、私も。

しかし、若い生徒たちの集団は時に軌道はずします。音高での「はずれ」など他の学校に比べればカワイイものでしたが、やはりあることはありました。察するに、萱嶋先生の「爆発」はこんな時にもたらされたようです。長い旅行の合間に生ずる「ゆるみ」や「たるみ」。若い子供たちにとってみれば当然と言えば当然のことです。そんなときに、生徒

そしてたぶん引率教諭にたいしても喝を入れる意味合いがあったのではないかと、私は密かに想像しています。「本当に恐くて、小さくなっていた」と居合わせた先生たちは懐かしそうに述懐していました。そこに、クモ学者としてではなく、我々の知らなかった萱嶋先生の「教育者」としての素顔を見たように思いました。私も教師の端くれとして今も教育の片隅の仕事に携わっていますが、いつも感じるのは「怒ることの難しさ」です。誉めると生徒が伸びるのは確かだと思います。けれども怒ることも同じくらい大切なことだと感じます。最近の教育は怒ることが封印されて為されているように思えてなりません。怒るときは本気でないと生徒はいとも簡単に見抜きます。うまく「怒る」極意を先生に聞いてみたかったと悔やまれます。

萱嶋先生の怒った姿は、他の多くのクモ仲間と同様に私は見たことがありません。恐いもの見たさではありませんが、先生の激怒した姿を一度くらいは垣間見ても良かったかなとチョットだけ、今になって思っています。

西表島日記（2）

谷 川 明 男

2006 年 4 月 22 日

昼間は大富の亜熱帯林観察路へ出かけた。入り口にあったミナミノシマゴミグモの網にはミナミノアカイソウロウグモがいそうろうしていた。ミナミノアカイソウロウグモは、オオジョロウグモがいるときにはオオジョロウグモの網にたくさんいる。イソウロウグモたちもオオジョロウグモがいないときには苦労していろいろなホストを利用しているようだ。オオジョロウグモはまだ葉上に造網しているくらいの幼体が多い。とてもではないがイソウロウグモを養えるような網ではない。この観察路の出口にはフクギが3列に並べて植えてあるところがあり、そこにはいつもスズミグモやキヌアミグモがいるので、チリイソウロウを探してみた。今年はクサグモの当たり年らしく、クサグモの網が41もあった。そのうち1つにはチリイソウロウグモのメスがあり、卵のう1つがあった。また、そのすぐ隣には主のなくなったズズミグモの網があり、その迷網にもチリイソウロウグモのメスと卵のうがあった。スズミグモの網はそのひとつしもなく、キヌアミグモの網も3つしかなかった。去年今年と、クサグモはいつもの年よりも多い。クモの世界の栄枯盛衰を垣間見た気がする。



スズミグモやクサグモがよく見られる
フクギの植栽

いままではきちんと数を数えていなかったもので、これからはちゃんと個体数を数えておこうと思う。こんなに日がよくあたる場所でもチリイソウロウグモがいるのなら、大富のサトウキビ畑の中にあるフクギの植栽（ここもやはり3列に植えてある）にもいるかもしれないと思って見に行ってみたが、そこにはものすごくたくさんのキヌアミグモがいたもののチリイソウロウグモはまったく見られなかった。



テッポウユリ



ヘリジロツケオグモ



セマルハコガメ

宿への帰り道では、道端にテッポウユリがきれいに咲いているのに気がついた。

夜も同じ場所に出かけた。観察路入り口までの大富遊歩道沿いにはたくさんのセイロンアシナガグモがいたが、交尾中のペアはまったく見られなかった。やはり昨日の多さは偶然の出来事であろうか。また、遊歩道に入っただけのあたりでは、ヤエヤマボタルがたくさん光っていた。ゲホウグモかつツゲホウグモの餌メニューのデータがほしかったが、今日は捕食中のものを見つけることはできなかった。サツマノミダマシの幼体はいくつか見られたが、ワキグロサツマノミダマシは見つからなかった。木の幹で、少し小さめのホソミアシダカグモの雄成体を見つけた。このクモの成体もいろいろな季節に見られる。

4月23日

今日は古見のポイントに出かけた。左ポイント入り口のすぐ近くにヘリジロツケオグモがいた。その場で30分間しんかいった（じっと観察した）が、捕食の瞬間を見ることはできなかった。この間に2度ハエのような虫が接近し、捕獲姿勢を取った。また、クモの体長の2倍くらいの大きさのゴキブリがクモに近づいたが、この時にはクモは葉裏に逃げた。こうしてじっと観察をしていると、植物の葉の上にはけっこう虫がやってくる（クモがいなくても）。特に誘引しなくても偶然にやってくる虫を捕らえるだけで生きていけそうな気がする。実際に、いろいろな

クモを飼育してみると、毎日餌を与えなくても十分に成長していく。クモが必要としている餌の量はけっこう少ないように思う。クモの眼前に偶然虫がやってくる確率はどのくらいだろうか、前回の観察では、食べきれずに貯食するくらいの高確率ではあった。

右ポイントでは久しぶりにセマルハコガメを見た。そんなに珍しい亀ではないが、見ようと思ってすぐに見られるほどたくさんはいない。

夜も古見に出かけた。左ポイントに2個体のツツゲホウグモがいた。うち1個体は網を張っている最中であつたが、もう1個体はすでに獲物を捕食中であつた。すでに原形をとどめていなかったのが即断はできないが、網がかなり破損しており、破損している部分からクモのいる中心部にかけて鱗粉が付着していたことから、この獲物はガであるように思われた。獲物はクモから取り上げて持ち帰ったので、拡大観察すればはっきりわかるだろう（後日、検鏡してガであることを確認した）。網を張っていたほうの個体は、右ポイントの観察のあとにも確認したが、小さな双翅類と思われる昆虫が3個体付着して放置されていた。ツツゲホウグモは昼間は網を残さないのだから、この小さな獲物はきつとたたんだ網と一緒に食べられるのだろう。ゲホウグモ類の目の細かな網はこのような小さな獲物を捕らえるのにも有効であろう。

帰り道、道路上で小さなサキシマハブを見た。

4月24日

今日は、古見と美原の間のポイントへ行った。いままでずっとこのポイントの道はすぐに終わっていると思っていたのだが、前回来たときに、ずっと奥まで続いていることに気がついた。どうも古見岳へのルートのようにだ。登り4時間、下り3時間と決めて、行けるだけ行ってみることにした。しばらく沢を向こうへ渡ったりこちらへ渡り返したりするアプローチが続く。ふと見た木の幹、高さ1mくらいのところのへこみにサキシマハブがじっとしている。よく見ると体にダニがついている。ヘビにもダニがつくのか。そういえばカメにはよくついている。木の幹の表面ではヤエヤマナガイボグモが卵のうを守っていた。しばらく行くと大きな岩がごろごろしているところがあり、チクニドヨウグモが何個体も網を張っていた。このクモは西表ではパッチ状に生息している。このような環

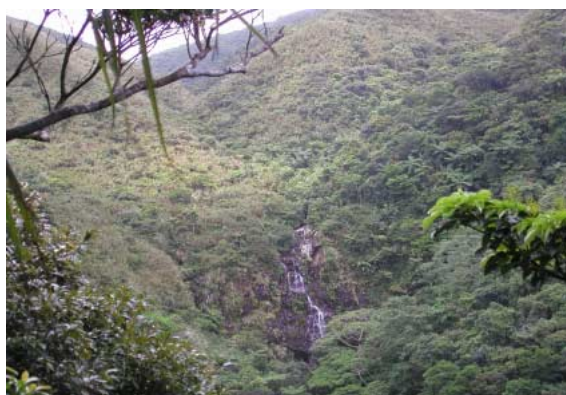


ツツゲホウグモ



サキシマハブ

境は、西表にはそこらじゅうにあるのに、ほとんどの場所でチクニドヨウは見られない。チクニドヨウの生息場所のすぐ先から、道は尾根沿いの急な登りとなった。いままでは私の足音に驚いて逃げ惑っていたクモたちは、クラークコモリグモやイリオモテコモリグモだったが、尾根筋に入ってから、ホソミアシダカグモの幼体やヤエヤマシボグモが目立つようになった。かなり登ったところで谷の向こうに小さな滝が見えるところがあった。



古見岳への登山ルートの中で見える小さな滝

滝が見えやすいように木の枝が払ってある。テドウ山の登山道の途中にも船浦湾がよく見えるように木の枝がはらってある場所がある。そうしなければ、西表の山はたとえ頂上に到達しても何も見えないのだ。心に決めた4時間が過ぎたが、頂上には到達できなかった。中高年の遭難とかで騒ぎになるのはいやだし、携帯電話も通じない場所なので、心残りではあったがちょっとしたピークを最後に降りることにした。やはり観察しながら登るのは無理のようだ。この次は登ることに専念してみよう。山を降りてくると、来るときに見たサキシマハブが、同じ場所と同じかっこうで凍りついていて、何か獲物が来るのをじっと待っているのであろうか。いつでも飛びつけるとぐろ状態は保ったままだった。

夜は、美田良のアシナガグモ通りへ出かけた。久しぶりにシロオビトリンフンダマシを見た。内地では普通種のシロオビも西表ではとても珍しい。なにしろ西表で見るのは、この個体で5個体目なので、4年に1回くらいしか見られないということになる。また、ゲホウグモの幼体が網を張っていたが、獲物はかかっていなかった。ヤマシロオニグモは体長にしてはずいぶん大きな網を張っていた。

(つづく)

入退会は：

事務局 初芝伸吾 186-0002 東京都国立市東 3-11-18-203 (有) エコシス

E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

通信原稿投稿先：

通信担当 谷川明男 247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tknw@j.asahi-net.or.jp

談話会通信次号の原稿締め切りは2006年4月末日です。ご投稿お待ちしております。

KISHIDAIA 原稿投稿先：

会誌担当 池田博明 258-0018 足柄上郡大井町金手 1099

E-mail : fwgd9084@mb.infoweb.ne.jp